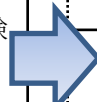


<b>授業デザインシート</b> 形式 Ver.H29.8	高校1年 美術 I	題材名 自分の感性を探ろう～時間と空間を演出する襖絵	(12)時間扱い	高志高校 野村由香里
----------------------------------	--------------	-------------------------------	----------	---------------

美術で付ける将来に生きる力(追加・削除して使用)						ガイダンス (生徒に伝えるねらいや評価基準など)	
何を知っているか、 何ができるか :知識・技能	素材・用具	形の造形要素	色の造形要素	美術史 社会と美術 知的財産等		①額装の絵にはない動的な視線が生み出す襖絵から生活空間などにも視点 を上げ、総合プロデュースされた日本美術に関心を持とう。時間と空間の 演出を鑑賞し、日本美術の思想や美意識、感性に思いを巡らせよう。自分 の感性とつながるところがあるか感じてみよう。 ②日本の美術文化の特徴を糸口に、自分が考える時空間を帯状の三面で構 想しよう。途中、カメラを座敷にいる人が見回す視点として映写して、構 図、空間、奥行き表現を検討して深めます。 ③和紙と墨、水干や顔料など材料を自由に試しながら先人の表現の工夫を 見つけ、自分の表現に生かしていこう。越前和紙の特徴を感じ取ろう。 ④制作後、「文化継承と創造」について考え、意見をまとめます。	
どう使うか :思考力、判断力、 表現力	感覚を働かせる・ 観察から発想 創造的に試作、 推論、探究	社会の課題から 発想 企画・計画	自分の思いから 発想 構想・構成	情報収集・活用 論理的・批判的 思考	身体と意思の 調和 空間認知		
学びに向かう力・ 人間性 :主体的に学習に 取り組む態度	美の感性、 自分の価値 共感 創造力	未来への責任 社会参加 洞察 自己調整力	自己・自国文化 理解 創造的に課題 解決、やり抜く	他者・異文化理 解 協働/リーダー・フ ォロー			



<b>生徒のこれまでの学び</b> ～小・中の内容の連続性～
福井県の取り組みにより、小 学校で水墨画、中学校で水干 や顔料を使った日本画を体験 している。  風神雷神図や菱田春草の落ち 葉屏風を鑑賞している。



指導		授業の流れ	
ユニット	発問		活動内容
①	自分の中の日本の美意識 に目を向けよう		課題：登下校で美しいと思うものを一つ探してくる 事前アンケート結果発表 日本の美術品、方丈の襖絵や作庭に込められた思想や時空間の演出のなど から日本の美術文化に見られる特性を理解する
	模写しながら感じよう		筆の線の表現、構図に意識を向ける (中学校までの水墨画の復習)
②	何を表すかを考えよう		主題生成と下図作成 何を表現するかを絞り込む 下図をWEBカメラを座敷の人物の視点にして写して鑑賞し構成を深める
③	表現にあった技法を工夫 して計画的に制作しよう		和紙と墨や顔料の表現の技法、顔料自作体験などから、色の知識を復習 (「色の道具ボックス」使用) し、技法を試すなどしながら自分の主題に あった表現を探りつつ、制作手順の計画を立てて制作する
	完成作品と先人の作品を 比較鑑賞しあおう		WEBカメラを座敷の人物の視点にして写して鑑賞し合う 先人と共通するところ、異なるところなどから自分の感性について考えを まとめる
④	日本文化継承と創造につ いて自分の意見を持とう		アンケートや文化財保護の資料などから日本の文化継承の現状を知り課題 をグループ活動で話し合い、自分の意見を文章にまとめる

指導ユニット  
Ver.H29.8

題材名

自分の感性を探ろう～時間と空間を演出する襖絵

導入／展開／まとめ

指導案など資料

ある なし

① 自分の中の日本の美意識に目を向けよう

(1・2)時間目

道具・鑑賞box

ある なし

## 指導項目(追加・削除して使用)

知識(共通事項)	果 じや効	形 の感	果 じや効	色 の感	効 果	材 料	果 じや効	光 の感	作 風	心 情	見 立
	三 属 性	空 間	余 白	遠 近 感	立 体 感	動 勢	構 成				
な(創造的)技能	生 具	材 料	順 序	制 作							
な(発想・構想・鑑賞)	考 考	材 料	え た こ と	感 じ	場 所	観 察					
	能 に つ い て	用 途	構 成	装 飾	生 活	伝 達	我 国	諸 外 国			

1

資質・能力(発想・構想／創造的な技能など)

・日本の美術文化の美意識に共感するところがあるか鑑賞しつつ、日本文化と自分の感性に意識を向け、日本の美術文化の特性を理解する。

2

活動内容

・登下校で美しいと思うものを一つ探して授業に参加し、薄などをモチーフとした日本の絵画鑑賞などから日本の美意識の特性を考える。  
・事前アンケート結果発表後、日本建築の生活空間と襖絵などの関連を鑑賞しながら、時代の生活と美意識の奥にある宗教観や和歌などの共通の教養を用いた秘された表現などの工夫を知る。

3

授業作りの要点

「日本のおもてなし」という言葉を耳にするが、日本の美術文化を語れますか？

事前アンケート結果を伝える

対話的な学びの場面

気がついたことや意味づけたことを根拠となる知識につなげていく(自己、もの、他者との対話)

登下校で美しいと思ったもの(課題)を出し合った後、薄や水など自然をモチーフにした日本の絵画の美に共感できるか感じ取りながら鑑賞する

大徳寺の襖絵と作庭に込められた思想や時空間の演出を学ぶ  
屏風や襖絵表現に隠されたその時代の宗教観や人生観、美意識について考える

深い学びを成立させる工夫

実感をともなった理解によって知識を身につけていく

複数の鑑賞資料から、教養を基にした表現の秘匿性や工夫などの共通項を拾い出し、日本の美術文化の特性を理解する

造形要素

日本の絵画に見られる色と形の特性

思考する環境

「鑑賞資料」タブレット等資料収集道具

建築、庭、襖絵の関係や時代背景の理解が進められる情報の準備

4

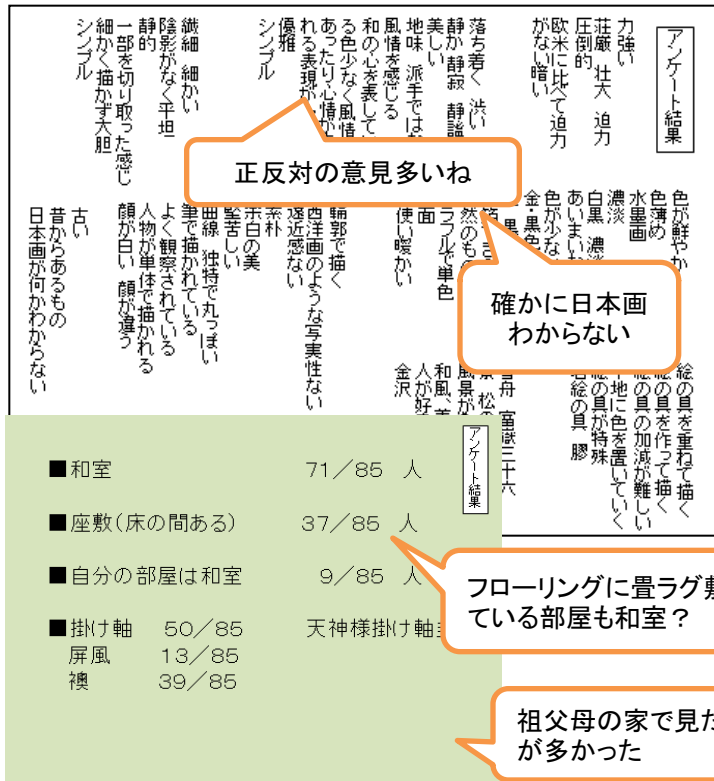
準備物

事前アンケート結果、  
「鑑賞資料」、タブレット等資料収集道具  
薄などの秋草、  
各自美しいと思ったものを探してくる  
資料：大徳寺の襖絵と作庭に込められた  
思想や時空間の演出  
襖空間のジオラマ、家の模型、資料(建  
築、庭、襖絵の関係や時代背景の理解が  
進められる情報)

※適宜記入

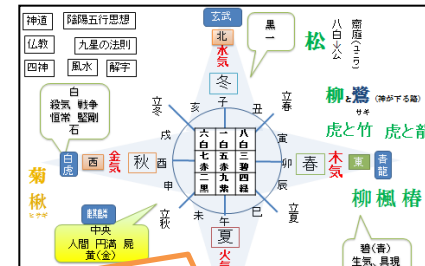
# 実践記録

## ① アンケート結果 (平成28年11月4日)



② 登下校で美しいと思ったものを見つけてくる(課題)発表後、日本の絵画の目の付け所と共感できる場所を探る【薄のモチーフ、水のモチーフつながりの作品などで鑑賞】

③ 大徳寺の襖絵と作庭に込められた思想や時空間の演出を糸口に時代の思想や美意識を想像する



## ④ 鑑賞

【虫の音を聞き自然を愛でる自然観、桜の「事・様・姿・状態」に、宿る、循環、めぐる(四季、昼夜、生死、栄枯盛衰、喜怒哀楽)などを重ね見立てる人生観、たらしこみの偶然性を見立て味わう感性など日本人の美意識の特徴を探していく】

## 評価と改善点

アンケートで「床の間」をゆかのまと読み、襖を障子と混在し、座敷などは祖父母の家で見たことがあると答える生徒が多くいた。あと一世代で日本の和文化を身体感覚で共有できなくなるのではないかと感じた。福井県は小学校の修学旅行が京都・奈良であるが、知識が少ないため関心を持って見ておらず記憶にないようだ。知識が深まってから再度神社仏閣を見る機会が持てるとよいが、中学校、高校は海外である。「日本の美術の絵画」で岩絵の具や和紙を扱うが、岩絵の具を扱った制作で終わりではなく、日本文化の継承と創造の課題に目を向けることを最終のねらいとしたい。

・「今年薄を見たか」との問いにクラスで3名ほどが挙手したが、見た場所が美術室から見える体育館の屋根の上に生えている薄だった。自然との触れ合いが難しい環境の変化の中で先人の日本美意識に共感できるか。H28は水墨で実際の薄を葉の裏まで見て理解し筆で一気に墨で描く。難しさを感じてから鑑賞することで「うまいな」が「すごいな」に実感を通した感動に変わるとアドバイスをいただいた。H29は、好きな絵の一部を模写して構図や余白、筆跡の見立ての凄さを実感しながらの鑑賞を入れた。

・生きてきた時間や知識があるレベルに達しないと感じ取れない色や形がある。生徒の成長や年齢が感じ取れる色や形を提示すること。日本の美意識、人生観についての話に関心を持てる生徒、持てない生徒がいる。グループに応じたスモールステップが一段必要である。

指導ユニット Ver.H29.8	題材名	自分の感性を探ろう～時間と空間を演出する襖絵	導入／展開／まとめ	指導案など資料	ある なし
	② 何を表すかを考えよう		(3-6)時間目	道具・鑑賞box	ある なし

指導項目(追加・削除して使用)									
知識(共通事項)	果てしな	形や効	果てしな	色の感	効果	感じや	材料の	果てしな	光の感
	三属性	空間・余白	遠近感	立体感	動勢	構成			
な(創造的)技能	方	用	材	順	作				
	生	具	料	序	の				
(発想・構想・鑑賞)	から	材	機	え	た	こ	考	場	所
	能	機	器	た	こ	考	考	場	所
	能	機	器	た	こ	考	考	場	所
	能	機	器	た	こ	考	考	場	所
	能	機	器	た	こ	考	考	場	所

【材料】	紙	木	金属
土	竹	ガラス	その他
塊	線	点	
描画材	版	写真	
資料	用紙		
※適宜記入			

4 準備物
三面の紙、筆、刷毛、墨、小皿、水入れ、コンテ、カメラ、プロジェクター、スクリーン、襖空間のジオラマ、

1 資質・能力 (発想・構想／創造的な技能など)	2 活動内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の美の特性から発想し、自分の考えを空間と視線の動きで生まれる時間の演出を使って構想する。</li> <li>活動の過程で日本の絵画の構図などの特性の必然性を感じ取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4つの糸口をヒントに、視線の動きを利用した時間</li> <li>空間の表現の主題を考え三面を部屋の空間に見立てて下図を描く。</li> <li>意図が思うように出ているか、カメラを部屋にいる人の視点に見立てて動かして映写し、他者の意見も得ながら、自分の構想を練る</li> </ul>

3 授業作りの要点
-----------

<p><b>主体的に学ぶ工夫</b></p> <p>思考・試作する環境</p>	<p>生徒が直接体験することで経験から価値をつくっていく</p> <p>日本の美の特徴から4点のヒントを基に、何を表すために時間と空間の演出をするか主題生成しつつ三面の下絵を作成する</p>
<p><b>対話的な学びの場面</b></p> <p>思考力を使う問いかけ</p>	<p>気がついたことや意味づけたことを根拠となる知識につなげていく(自己、もの、他者との対話)</p> <p>視点を動かすと、時間と空間がどのように現れるか</p>
<p><b>必然性のある対話</b></p>	<p>三面の帯状の紙を襖絵で囲まれた空間に見立て、カメラを生活者の視点の動きに見立てて映写し、他者と意見交換して気づいたことから構想を深める</p>
<p><b>深い学びを成立させる工夫</b></p> <p>思考する環境</p>	<p>実感をともなった理解によって知識を身につけていく</p> <p>日本の美術の鑑賞資料、タブレット</p> <p>余白、遠近感、奥行きなどの造形要素や構図を考えるための鑑賞資料準備</p>



### ①カメラで写して試しながら話し合いをしている生徒達



あれ一写す方向で全く違う世界に変わっていく感じがする

襖絵の空間の視点の移動は映画見ているみたいだね

じゃあ、左は地面をアップして、中央は空見ているという具合に場面が切れてもOKじゃない？

座敷ジオラマを手動で動かして中央に座る人物の視点を動かして見ている気分で鑑賞しよう

この間見た洛中洛外図屏風みたいにグーグルマップみたいに空から見た映像とか。日本の目のつけどころおもしろーい

余白はフェードイン、フェードアウトって何か？

絵巻物と同じってことかな。これも日本の美意識なの？

思いっくままに筆でアイデアスケッチ

水で紙を濡らしてから絵の具を置く方が雰囲気あるって

見立てて感じ取るって日本の美意識なんか？



### ③スケッチをしている生徒達



なんか薄らしくない？

3面で囲まれると落ち着く感じがする



## 評価と改善点

- ①の生徒群：自分のやりたいことがあってどんどん進めてきた生徒は、書画カメラで写してあれこれ話を進めていた。座敷を手動で動かして映し方を変えていたら、世界が変化して見えた。そこから、絵巻物や平行投影法など前見た作品の話につながっていた。日本美術の感性についても話が進んでいる。
- ②の生徒群：透明水彩に戸惑うまくアイデア通りに表せていなかったが、試していくうちに、たらし込みやにじみの効果に行き着き、偶然の色合いからイメージを膨らませて制作を進めていた。（技法がわかれば制作を進められるグループ。中学校までに経験してきていないのか）
- ③の生徒：前回からイメージが作れず水墨の模写や薄のスケッチを筆で取り組んでいた生徒たちは、今回も水墨に挑戦していて、なかなか空間構成に向かわない。前は輪郭で描いていたが、今回は筆跡の見立てで絵を見るようになっている。主題生成が難しい生徒は最初私語や資料探しが目立ったが、無言で取り組むように変わってきた。

<b>指導ユニット</b> Ver.H29.8	題材名	自分の感性を探ろう～時間と空間を演出する襖絵	導入／ <b>展開</b> ／まとめ	指導案など資料	ある <b>なし</b>
	③	表現にあった技法を工夫して計画的に制作しよう	(7-10)時間目	<b>道具・鑑賞box</b>	<b>ある</b> なし

指導項目(追加・削除して使用)									
知識(共通事項)	果 じや効	形 の感	<b>果 じや効</b>	色 の感	効果	材料の	果 じや効	光 の感	様 式
	三属性	空間・	余白・	遠近感	立体感	動 勢	構 成		心 情
な(創造的)	方 生	材 具	順 序	制 作					
(発想・構想・鑑賞)	考 力	判 断	力	表 現					
	材 料	機 器	使 用	途 途	機 器	場 所	観 察	我 国	諸 国
	能 力	機 器	機 器	機 器	機 器	機 器	機 器	機 器	機 器

【材料】	紙	木	金属
土	竹	ガラス	その他
<b>塊</b>	線	点	
<b>描画材</b>	版	写真	
資料	用紙		
※適宜記入			

4 準備物
色の道具ボックス ビデオ 試作する材料(水干、顔料、顔料を自作するキッド、和紙、筆、水入れ、小皿、膠)

1 資質・能力(発想・構想／創造的な技能など)	2 活動内容
・先人の絵から表現の工夫を学び、色の基礎知識とつなげて理解し、試作しながら色の知識を応用し、主題を効果的に表す表現の計画を立てる。	・伊藤若冲の色表現の工夫を鑑賞し、色表現の工夫の多様さ味わう。 ・各自、色の基礎的知識を「色ボックス」で補いつつ、色の効果的表現の工夫を自分で使いこなせるように理解する。 ・試作しながら自分の表現にあった制作方法を計画する。 ・越前和紙の特徴を体験する。
3 授業作りの要点	
<b>対話的な学びの場面</b>	気がついたことや意味づけたことを根拠となる知識につなげていく(自己、もの、他者との対話)
<b>思考力を使う問いかけ</b>	伊藤若冲の色の実験的表現と「色BOX」の色の科学的知識と対応させよう
<b>必然性のある対話</b>	重色、混色、裏彩色、にじみ、たらしこみなどの技法を色BOXの資料と対応させる活動をしながら話し合いつつ知識を実際に表現の工夫につなぐ
<b>深い学びを成立させる工夫</b>	実感をともなった理解によって知識を身につけていく
<b>思考する環境</b>	「色BOX」、試作材料
<b>主体的に学ぶ工夫</b>	生徒が直接体験することで経験から価値をつくっていく
<b>思考・試作する環境</b>	下図から実際に制作するまでの計画を試作しながら検討する



# 実践記録

実践日：平成28年11月



おーよく見える

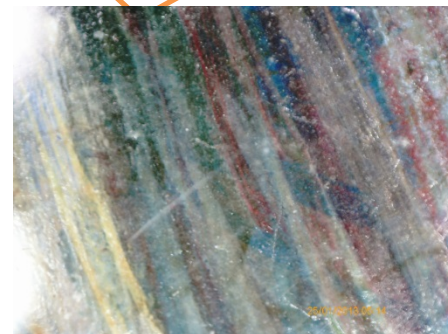
色塗りは苦手だと思っていたが、同じような色を重ねていたせいか



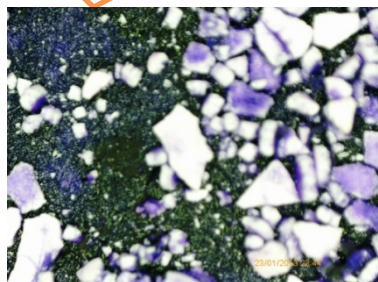
色の点が並んでいて本物らしく見えるね



線を重ねて描いているのも複雑な色を作るためなのか



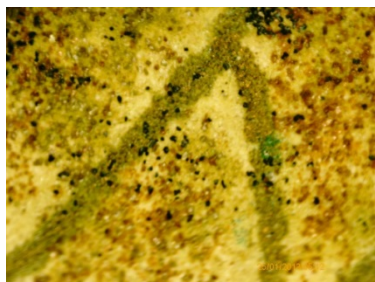
卵の気孔に色を染みこませて顔料が作れるのは驚きおもしろそう



フレスコって壁に絵を描いていたのか



日本画粗い粒がよく見えるいろいろな粒で複雑な色を出しているね



## 評価と改善点

中学校美術や理科で色に関する知識(三原色、眼の構造、光の波長など)は断片的に得ているはずだが、前回のアクリル絵の具を使用した絵画では、思い通りに色を出す工夫の視点を持っていない生徒が多く見られた。ハッチングや重ね塗りなど技法を指導しても制作手順としてしかとらえられず、他の制作に応用できないとか、各教科の知識が表現の工夫につながらない課題を感じている。日本美術の絵画では、手作り水干や岩絵の具を膠で定着させるので、事前に画面の拡大、分光や偏光、干渉などの科学的な色のとらえかた、色と心理など、多様な色の切り口を「色ボックス」で各自補い、制作時に色の表現を自分で考える下地の時間をとった。「伊藤若冲」のNHKビデオ(画面拡大で科学的に色の工夫を解析している)一部を視聴後に色ボックスを試したクラスより、色BOXで一部知識を得てからビデオ視聴したクラスの方がDVDへの集中力が高かったように感じた。伊藤若冲の表現を読み取る色や形を読み取る知識があると、「すごい」と感動の声があがっていた。



## 制作環境作り

感性を動かす手がかり



秋の草花

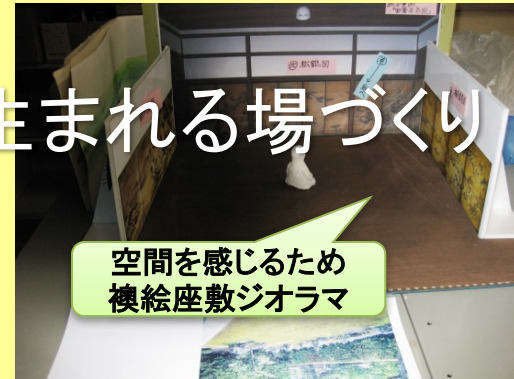


樹皮、石、くりなど自然物

## 対話が生まれる場づくり



書画カメラで空間をイメージする手助け



空間を感じるため  
模絵座敷ジオラマ

## 試行錯誤を奨励



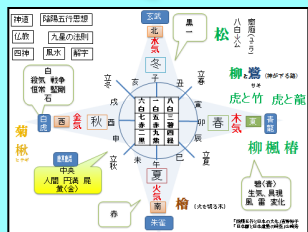
透明水彩、水墨用具、帯状の紙、半紙、はさみ、テープ

知識をつなぐ手がかり



色に関する知識をつなげよう資料(復習)

## 日本の美術に関する作品以外の資料



## スマホ使用禁止なのでパソコン



## 日本の絵画資料



日本の美の特徴を感じ取る手がかり

## 日本絵画の画材(予習)





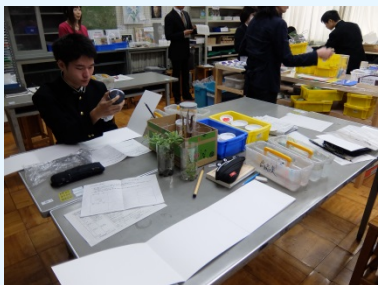
## ①やりたいことが見えている生徒



枝の描き方が納得いかないから資料ボックスで解決策を探る

平面で描きながら立体空間がイメージできている

## ②主題に迷いがある生徒



学校のモチーフ枝で木の幹をイメージ中



自分のやりたい時空間に日本の美がない感じがしてる。でも、誰も作っていない空間を作りたいし..

## ③主題が思いつかないと悩む生徒



水墨画の資料を選んで一部模写して帯に仮止めてみて、竹の感じが好きだから左も竹にしようか花にしようかイメージ中

資料の中に自分の感覚にあうものないかな



形がとれないからとスケッチを避けるため③の生徒の一部に薄を描くように指示する



何回か描き直して「あれ？自分ってうまくない？」と自分の成長を喜んでいる。みたてを味わいだしている

## 評価と改善点

・A: やるべきことの理解(日本の美意識を自分の中に探りつつ、自分の時空間を構想する)、B: やりたいことの発見(自分の自然観、人生観って何かな、どうやって演出しようかな)、C: やれるようにする技術のAとBのところの授業である。

①の生徒は、Aが前回の鑑賞で理解できBを考えて授業に参加。主体的に取り組み、課題が出たときは「道具ボックス」で解決を図ろうとしていた。平面に描いていても空間がイメージできている。

②の生徒は、やりたいことがあるのだが、日本の美意識、人生観という言葉から再度構想を練り直し、いくつかのアイデアから絞り込み中。好きな作品を選んだり一部模写したりしながら思考していた。

③の生徒は、前回授業でAが理解できていない、難しすぎたようだ。日頃いろいろなことへの好奇心も薄いので知識ポケットも少ない。「道具ボックス」に群がり答えを求めようとする姿が見られた。模写についても②の生徒の意識を持った模写ではなく、ただ空間を埋めるための模写になっていて感性や思考があまり働いていない。この段階の生徒のためには、自然物の薄をスケッチするスモールステップの時間が必要。

主題生成の糸口例

- A 「事・様・姿・状態」を見て湧いてきた心情や考えたこと(例:池のほとりの草からけなげに生きる人生を重ねる、桜の散る様に潔い生き方を重ねるなど)
- B 「宿る、循環、巡る」 人生観を基に考える(例:栄枯盛衰、輪廻転生、天国と地獄など)
- C 好きな和歌や先人の表現に重ねて考える(例:枕草子を今の時代に置き換える)
- D 好きな歌詞、心に残る風景、理想郷などから呼び起こされる心情を表す

主題生成の糸口は、

空間とその中に生まれる時間の演出の中で、感じてほしい考えや心情などは、

時間と空間を演出する工夫は、

その他

改訂点



三面図アイデア      内容 《      》

--	--	--

三面図アイデア      内容 《      》

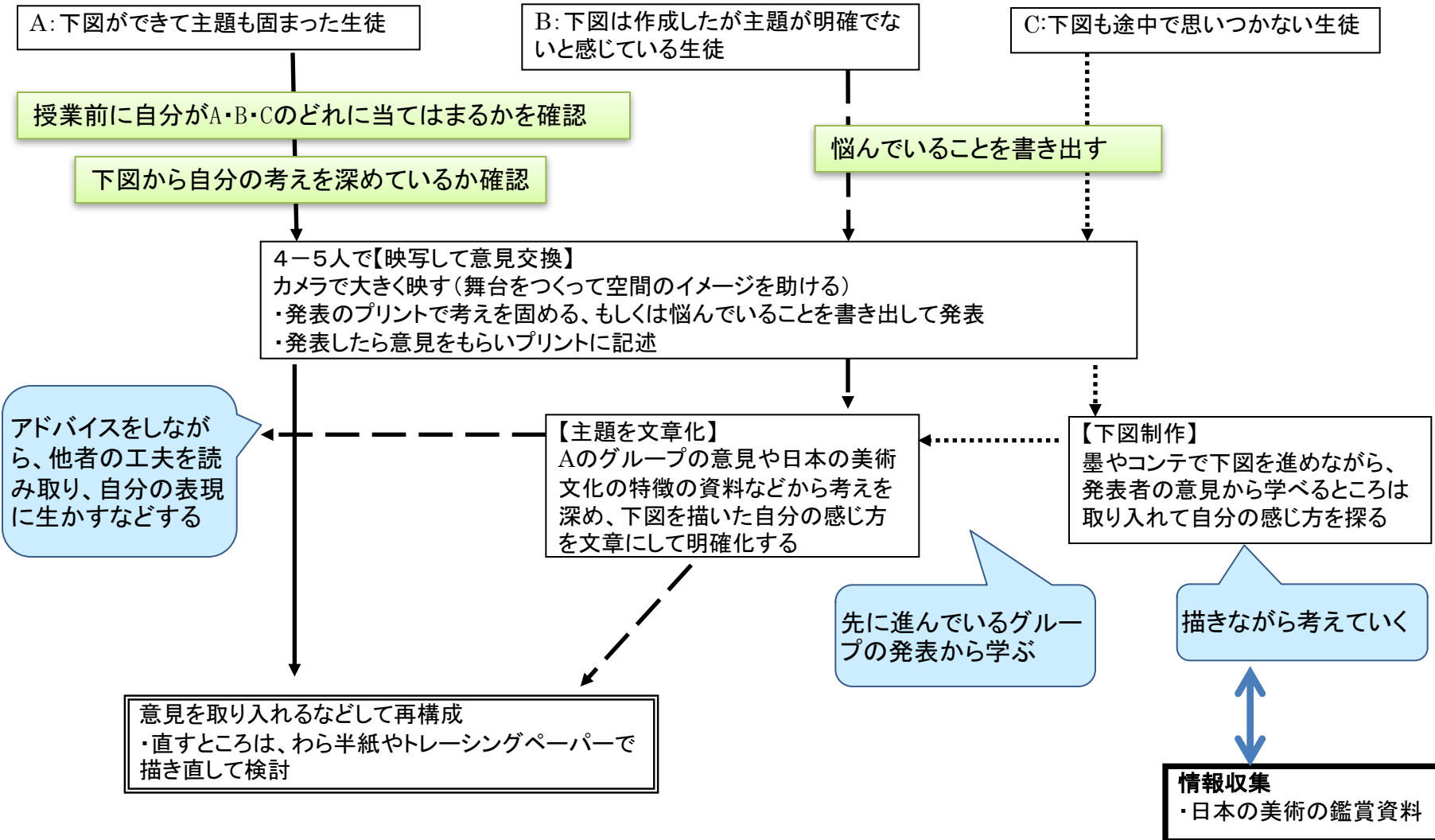
--	--	--

三面図アイデア      内容 《      》

--	--	--

## 個々の思考を活性化し、深化するために

前の授業まで: 主題生成の4つのヒントから主題を決め下図を描き、早い生徒は、下図を終わらせ主題を固めて文章化している。遅い生徒は、下図に取り掛かっているか、主題がつかみ切れていない。



次回予告 下図が固まった人は、制作の計画に入る。まだCの人は、各自時間を見つけて進める。



<b>指導ユニット</b> Ver.H29.8	題材名	自分の感性を探ろう～時間と空間を演出する襖絵	導入／展開 <b>まとめ</b>	指導案など資料	ある <b>なし</b>
	④ 日本文化継承と創造について自分の意見を持つ		(12)時間目	道具・鑑賞box	ある <b>なし</b>

指導項目(追加・削除して使用)									
知識(共通事項)	果 じ や 効	形 の 感	果 じ や 効	色 の 感	効 果	材 料 の 感	果 じ や 効	光 の 感	様 式 作 風 や 構 成
	三 属 性	空 間 ・ 余 白 ・ 順 序	余 白 ・ 順 序	遠 近 感	立 体 感	動 勢	構 成		<b>文化財</b>
(創造的な)技能	方 生 か し	材 料 の 用 具 や 機 器	材 料 の 用 具 や 機 器	順 序 の 考 え	感 じ 取 つ た こ と	場 所 か ら の 考 え	観 察 か ら の 考 え		
(発想・構想・鑑賞)	考 え 力 判 断 力 表 現 力	材 料 機 器 の 考 え	材 料 機 器 の 考 え	考 え 力 判 断 力 表 現 力	考 え 力 判 断 力 表 現 力	考 え 力 判 断 力 表 現 力	考 え 力 判 断 力 表 現 力	考 え 力 判 断 力 表 現 力	考 え 力 判 断 力 表 現 力

【材料】	紙	木	金属
土	竹	ガラス	その他
塊	線	点	
描画材	版	写真	
<b>資料</b>	用紙		

※適宜記入

4 準備物
寺消滅、文化財に充てている国家予算、文化財の現状などの資料

1 資質・能力 (発想・構想／創造的な技能など)

2 活動内容

・日本美術の絵画から生活文化を考え、自国文化の継承と創造について自分の考えを持つ。

・文化材保護の現状を知り、文化継承の課題を意識する。

・各班で資料から現状を読み取り、原因を探り、解決案や自分の意見をまとめる。

3 授業作りの要点

**対話的な学びの場面**

気がついたことや意味づけたことを根拠となる知識につなげていく(自己、もの、他者との対話)

**思考力を使う問いかけ**

フランスと日本の文化財にかかる税金の差は何倍でしょう？

文化財にかかる税金の国際比較の資料などから日本の文化財の現状を読み取り、文化の継承と創造について自分の考えを持つ自分の意見をまとめよう

**深い学びを成立させる工夫**

実感をともなった理解によって知識を身につけていく

**思考する環境**

寺消滅、文化財に充てている国家予算と文化財の現状などの資料